

図書館だより

 2019年
4月号
2019年4月12日発行

オリエンテーション期間を終え、新学期の授業が始まりました。改めまして、1年生のみなさん、入学おめでとうございます。入学式、歓迎会等、行事が続く、疲れがたまっているかと思います。週末はゆっくり休んで、また来週から頑張りましょう。ゆっくり過ごす時間のお供として、図書館で本を借りていくのもおすすめです。どれを借りようか迷った時には、カウンターに声をかけてくださいね。

館内では本にPOPをつけたり、旬な展示をしたり、フリーペーパーを作ったり、今まであまり本を読んでこなかった人も「これ読んでみようかな」と思える工夫をしています。1年生はもちろん、2、3年生も昼休みや放課後のリラックスタイムに図書館へ足を運んでください。図書館だよりの紙面でもたくさんの本を紹介していきます。楽しい内容にしたいと思いますので、手元に届いたらまずは読んでみてください。

古典部で謎解き!?!

B913.6-3 『氷菓』 米澤 穂信 || 著 角川書店

9944折木奉太郎は神山高校の新入生。「やらなくてもいいことなら、やらない。やらなければいけないことは手短かに」がモットーの省エネな彼だが、姉の「古典部に入りなさい」という命令に逆らえず、廃部寸前の古典部へ入部する。しかし、誰もいないと思っていた部室には、なんと、もう一人の部員がいた。それが女学生という呼び名が似合う風貌をした千反田える だった。清楚な見かけによらず、好奇心旺盛な彼女と出会ったことで、奉太郎の省エネ生活は慌ただしい謎解き生活へと変貌をとげていく。そして、やがて千反田えるから古典部に入ったある目的を打ち明けられることになる。

疲れしない体になる

498-キ 『疲れしないカラダの使い方図鑑』 木野村 朱美 || 著 池田書店

この本を開いて、「まさに私がやっている姿勢だ!」と当てはまるものはないか、チェックしてみませんか。もしかすると、日常生活の中で行っているその動作や姿勢が気づかぬうちに体を疲れさせている原因となっているかもしれません。自分では楽な姿勢と思っていても実は体には負担を与えていたり、腕の付け根や頭の位置が思っていた場所と違っていたり、色々な勘違いをしていたことに気づかされます。体の作りや仕組みを正しく知り、疲れの原因を突き止め、疲れしない理想の体を作っていきます。

図書館の開館と貸出について

1年生のみなさんには利用案内を行ったばかりですが、再度ここで、2、3年生を含め生徒のみなさんに向け、図書館の開館時間や貸出についてお知らせします。

開館日: 月曜～土曜 ※ 日・祝日は休館です。

開館時間: 通常 8:50～19:00 (※月曜は11:00より開館)

土曜 8:50～17:00

考查1週間前 8:50～17:15

考查中 8:50～17:00

※学校行事及び長期休暇中の開館に関しては、その都度、お知らせします。

貸出冊数: 3冊まで

貸出期間: 新着本 * 1週間 その他 * 2週間 (雑誌も最新号以外は貸出可です)

★みなさんの持っている生徒証が図書館の利用証となります。この生徒証があると貸出がスムーズに行えますので、用意をお願いします。

★本の返却には記念館前にある返却ポストを利用することができます。



図書委員によるおはなし会や読書会、映写会を定期的に行っている他、館内で楽しめる制作コーナーの設置も季節ごとに行なっています。図書館での楽しみは読書だけではありません。気軽に図書館へ足を運んでください。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

2019年本屋大賞が先日発表されました。大賞に選ばれたのは瀬尾まいこさんの『そして、バトンは渡された』でした。どんな物語なのか図書館だよりでも次回紹介したいと思っています。さて、私が今月読んだのは、本屋大賞にノミネートされていた伊坂幸太郎さんの『フーガはユーガ』(913.6-1 実業之日本社)です。書名のフーガ、ユーガは何を示しているのかなと思ったら、双子の名前でした。風雅と優雅、この物語の主人公です。ふたりの境遇は、冒頭からかなり過酷ですが、力を合わせ、成長していきます。そんなふたりには、年に一度ある現象が起こります。なぜそんなことが起こるのか、何に一体役立つのかもわからない、不思議な現象ですが、キーポイントでもあります。ヒントを小出しにしながら徐々に全体像を見せていくストーリーの作りには、伊坂幸太郎らしさが散りばめられていて、「これを待っていたよ!」と次の展開を想像し、楽しみながら読みました。みなさんもどんな展開が待っているか予想して楽しんでください。

★先生がプロデュース!! 今月の展示★

今月の展示は…、**今井司書**がプロデュースです😊

展示のテーマは…、【食いしん坊な本】

私が好きなことは、本を読むこと、寝ること、そして、食べることです。食べ物のことを考えている時間は絶対、他の人の平均を大きく上回っているはず。旅行に出かける時にも、まずチェックするのは旅先のおいしいものだし、休日にはパン屋さんめぐりを楽しんでいます。そんな私は今回【食いしん坊な本】というテーマで展示をしました。「食」は本でも楽しめるものだというのをみなさんにも読んで実感してほしいです。

◆展示本リスト◆

- B297.9-二-1 『面白南極料理人』 西村 淳 || 著 新潮社
383-ブ 『英国一家、日本を食べる』 マイケル・ブース || 著 亜紀書房
596-ア 『おべんとうの時間』 阿部 了 || 写真 / 阿部 直美 || 文 木楽舎
→自分のでなくてもお弁当の中身って、見るだけでわくわくして、ほっこりします。食べている人の幸せそうな表情もすごくいい!
- B596-タ 『料理の四面体』 玉村 豊男 || 著 中央公論新社
596.2-モ 『全196カ国おうちで作れる世界のレシピ』 本山 尚義 || 著 ライツ社
913.6-ミ 『初ものがたり』 宮部みゆき || 著 新潮社
→私の食いしん坊な本の始まりとも言える本。江戸が舞台となった時代ミステリーですが、ここに登場する屋台で出される“初もの”を使った料理がとてもおいしそうなんです。
- B916-ハ 『もの食う人びと』 辺見 庸 || 著 角川書店
949-ゴ 『カードミステリー』 ヨースタイン・ゴルデル || 著 徳間書店
→魅惑の飲み物プルプルソーダ。味の描写を読んでいるだけで心弾みます。
- 949-プ-1 『小さなスプーンおばさん』 アルフ=プリヨイセン || 作 学習研究社
E-ヒ 『パンどうぞ』 彦坂 有紀 / もりと いずみ || 作 講談社
→素朴なタッチの絵ですが、本物そっくりにパンが描かれていて、「パンが食べたい!」という欲望がページをめくるたび、増していきます。

この中でも、いちおしなのは…



B916-ハ 『もの食う人びと』 辺見 庸 || 著 角川書店

著者の辺見庸さんが世界各国を食べ歩いた旅の記録。おいしいものを食べ歩くのではなく、現地の人々のありのままの食事を一緒に体験する旅です。歯形のついた残飯や生焼けのピター(蒸しパン)に恐れをなしたり、1杯のスープのおいしさに体を震わせたり、修道院や基地内で食事を摂ったりとする様子からは、世界の情勢と人間の“生”が浮かんできます。

本と振り返る平成の30年

いよいよ今月で平成が幕を閉じます。ひとつの時代が終わる節目には、色々な思いにふけてしまうものですね。思い返せば、自分のこと、世間のこと、どちらにもたくさんの出来事がありました。また、出版の世界でも、たくさん本が生まれ、話題をさらい、時代を彩ってきました。そんな平成の数々の本を1年間で振り返っていきましょうと思います。みなさんがまだ生まれていない頃に出版された本も多いですが、この企画を通して「そんな本もあったのか」と関心を持ってもらえたら嬉しいです。

平成元年のベストセラー本ランキングの1位に輝いたのは、『TSUGUMI』(吉本ばなな || 著 中央公論社)でした。なんと、この年は『TSUGUMI』に加え、10位内に他にも『キッチン』、『白河夜船』、『うたかた/サンクチュアリ』、『哀しい予感』と、吉本ばななの著書が5冊もランクインしています。『キッチン』は、吉本ばななのデビュー作でもありますから、デビューまもなくしての偉業と言えます。

翌年、平成2年のランキングでは、アメリカの脚本家・小説家であるシドニィ・シェルダンの『真夜中は別の顔』(2位)、『明日があるなら』(5位)2作が入っています。彼は50歳を過ぎてから小説を書き始め、『真夜中は別の顔』はまだ2作目でありながら、日本でもベストセラーとなり、話題の作家へ駆け上がりました。脚本家としてアカデミー脚本賞も受賞している多才な人です。またこの年は秋草百選でも紹介したホーキング博士の、『ホーキング、宇宙を語る』(S. W. ホーキング || 著 早川書房)が11位に入っています。この本は、出版されてから20年間で、なんと1,000万部以上の売り上げを記録しています。

933-ヨ 『白河夜船』 吉本 ばなな || 著 福武書店

いちばん仲良かった友達を亡くした淋しさ。現実ではないような彼との恋に感じる淋しさ。主人公寺子の心をいくつもの言い表せない淋しさが覆い、そこから逃れるように眠りばかりが深くなっていく。だけど、眠っても眠っても何も解決はせず、寺子は揺らめくように流れる日常に疲れ切っていく。この眠たさはどこからやってくるのか、眠たさや淋しさはどうしたらなくなってくれるのか、解決の仕方がわからずにいる寺子だったが、ある日、彼女は不思議な体験をし、亡き友からあるメッセージを受け取る。このメッセージが果たして寺子を救ってくれることになるのだろうか。

933-シ 『真夜中は別の顔』上・下 シドニィ・シェルダン || 著 アカデミー出版

アメリカ育ちで真面目にコツコツ努力を重ねるキャサリン、フランス育ちで美貌を武器に1つの復讐に燃えるノエル、生まれた場所も育った境遇もまったく違うふたりの女性の人生がひとりの男の存在によって繋がっていく。その男の名前はラリー・ダグラス。魅力的だが、その自由奔放な性格が大きな波紋を呼び、キャサリンもノエルもその渦中へ飲み込まれていく。事態は読者の心に休む間も与えず、悪化していく。ラストには舞台はアテネの法廷へと移るが、そこでも最後まで気が抜けない心理戦が繰り広げられるのだった。